



会議の流れ

オープニング	・プレゼンテーション：推進会議の目的、ルール確認	
ケース検討 事例1・事例2	■ケース概要説明 説明各5min.	・現在の状況に至った要因（個人因子・環境因子） ・生活機能評価の説明-改善可能なポイントなど
	■意見交換 グループワークでの検討15min.→グループ発表10min.（事例1・2とも）	・参加者はご自身の専門分野の視点から発言
	■グループ意見集約	・支援方針のまとめ
全体のまとめ	・振り返り～あいさつ～閉会	

ケース検討

事例1

〈ケースの概要〉

本人の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・67歳女性、要介護区分：事業対象者 ・[身長] 163 cm、[体重] 66 kg、[BMI] 24.8 ・側弯症、脊柱管狭窄症による腰痛のため、整形外科にてリハビリ1回/3週実施。 ・リハ担当者から筋力増強を目途とする運動系通所型サービス利用を勧められ、要介護認定申請。事業対象者判定の項目チェックにより対象者となる。
家族の状況	市街地(平坦地)にある自宅で夫と二人暮らし。市内に長男家族が居住し関係は良好。
医療受診	内科：高血圧、高コレステロール(通院治療。以下、同じ。) 整形外科：側弯症、脊柱管狭窄症 泌尿器科：過活動性膀胱
服薬情報	内科：ナトリックス、イルベサルタン、アダラート、プラバスタチン 整形外科：ロキソニンテープ、リマプロストアルファデスク、ロルノキシカム 泌尿器科：ペニタス、ゾルピデム
生活課題	<ul style="list-style-type: none"> ・整形疾患の痛みが強い際は、痛み止めを4回/日服用するが、整形リハにより軽減。 ・腰痛のため立位の保持は5分間が限界で、体動時は固定物に掴まりながら移動する。 ・自室は2階のため毎日階段の昇降があるが、歩行補助用具の使用は希望しない。 ・腰痛のため看護師の職を一旦は辞したが、筋力低下を懸念し就労を再開。勤務形態は座位が多いが、自転車による通勤時の振動による憎悪と信号待ちの立位が負担大。 ・買物は自家用車だが駐車場までの徒歩移動が負担で、夫・子の帯同が欠かせない。
望む暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・筋力upの必要性は認識しているので、リハ担当者が勧めるサービスを利用したい。 ・大勢で何かをすることは好まず、個人のペースで行いたい。 ・家事(特に立位で行うことのできない調理)の所要時間を短縮したい。 ・買物、自立歩行、旅行、知人との面談等を望んでいる。

〈事例の選定理由〉

整形疾患による痛みがあるため、生活動作は自立だが介護保険サービス(通所型)の利用を希望する方の事例。包括が行う様々な提案よりも、信頼を寄せる関係者(本事例では整形リハビリ担当者)の提案に呼応し、サービス利用を希望する類例。本人に適した他の資源の利用や、自助による取り組みの構築に繋げるためのアドバイスについて、意見交換を行いたい。

〈グループワークによる主な意見〉

〔対象者の特性〕

痛みがありながらも、フレイル教室(旧介護予防教室)や運動系通所型リハビリのサービスに取り組もうとする前向きな姿勢は本人の強味。また、看護師としての職を一度辞したのちに、筋力低下を懸念して再び医療機関での就労機会を得るところにも、本人が抱く危惧と、筋肉量増強に係る熱意が感じられる。しかし、信頼を寄せる関与者の助言には傾注するものの、他者からの助言には呼応しないといった傾向がみられる。“通所することが目標”となっているケースは、その方向性を見直しが必要。

〔目標プランの設定〕

整形リハビリ担当者により、目標とする具体的な生活レベルの達成に係る指導内容を明確化し、通所型リハビリの卒業見込みを視野に入れた実施期間を定める。併せて運動指導付き訪問マッサージの導入や、高齢者のフィットネス等のワンコイン指導、「すわかランド」施設での運動のほか、自宅で取り組むことのできる Youtube 体操などの自律機能訓練を導入するといった手法が考えられる。

〔自発行動等の取り組み〕

買物が楽しく思えるようになるための筋力レベル向上の取り組みのほか、同じく腰痛の症状を抱える夫とともに、フレイル予防教室への再挑戦を課題として設定し、継続して取り組む目標設定を行う。

ケース検討

事例2

〈ケースの概要〉

本人の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・92歳男性、要介護区分：要支援1 ・[身長] 155 cm、[体重] 51 kg、[BMI] 21.22 ・腰椎圧迫骨折(2年ほど前)に起因する円背と、それによる起居動作時の腰痛。 ・外出機会の減少→活動量低下→筋力低下→自宅浴槽内における立ち上がり動作“－” ・友人の機能訓練型デイ通所を知り、妻の勧めもあり新規申請となる。
家族の状況	市街地(平坦地)にある自宅で妻と二人暮らし。近隣自治体に娘夫婦が居住、関係は良好。
医療受診	内科：慢性腎不全、高カリウム血症(通院治療。以下、同じ。) 整形外科：圧迫骨折
服薬情報	内科：ロケルマ混濁用分散包、アゾセミド、アセトアミノフェン 整形外科：ロキソニンテープ
生活課題	<ul style="list-style-type: none"> ・円背に起因する起居動作時の腰痛はあるが、身の回りのことは自立。 ・自宅内の段差は固定物に掴まり昇降動作も可能だが、下肢筋力の低下から椅子の生活。 ・かかりつけ医まで 200mの距離は、自立移動による受診が可能だが、それ以外の外出は娘や息子の送迎により対応している。 ・腰痛により、活動量及び外出機会は減り、買物や家事全般は妻による。 ・長年に亘り俳句の講師として地元サロンに徒歩で 2回/月参加してきたが、体力面での限界を感じ、申請中の通所サービスの利用開始に伴う引退を検討している。
望む暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・腰痛はあっても、身辺自立の生活は続けたい。 ・俳句講師を辞すると外出が減るため、定期的な外出機会としてサービスを利用したい。

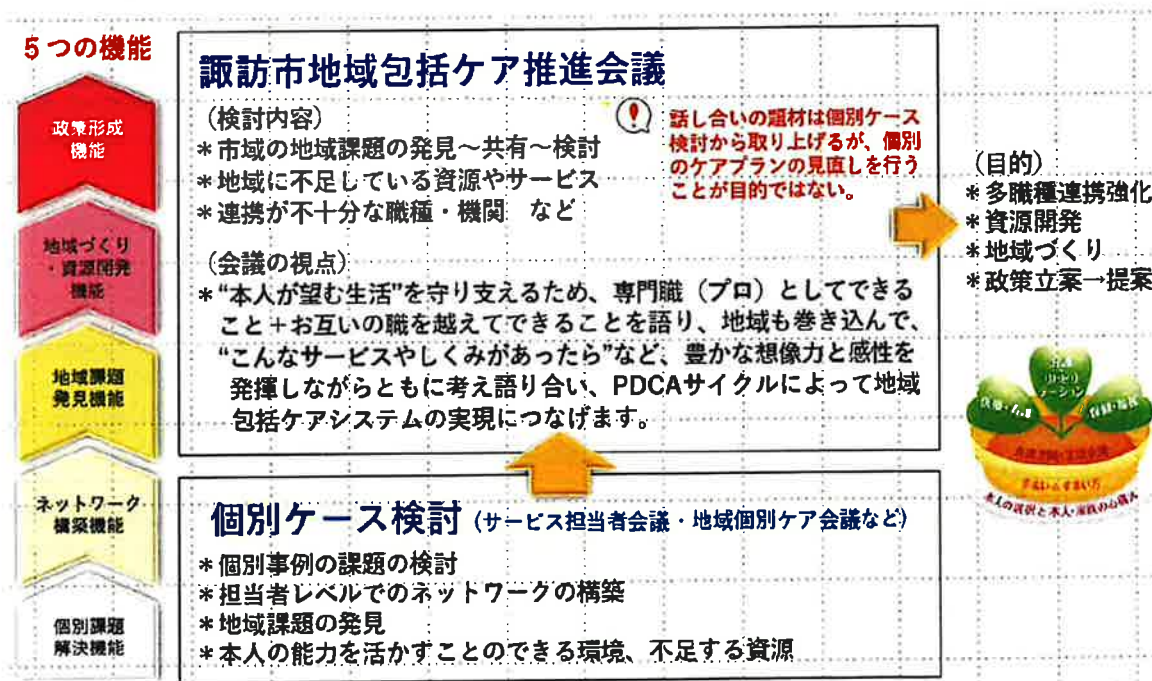
〈事例の選定理由〉

妥協的に希望していた通所サービスであったが、俳句サロンの受講者の協力によって移動手段が確保され、フォーマルサービスの提供が不要となった。本人が希望する趣味活動が継続可能となり、満足度も高い。こうしたケースの地域課題として、外出支援のインフォーマルサービス構築について、意見交換を行いたい。

〈グループワークによる主な意見〉

- ・俳句サロンを通じた従来の人的なつながりから、講師としての外出機会を継続して持てるようになったので、今後は買物などを含めた同行支援などの取り組みに拡がるのが望ましい。
- ・行きたい場所やその場所での目的が明確であれば、協力者による移動手段の構築が具体的に行えるのではないかと。また、協力者が加入することのできる社協の保険を利用することで、協力者側の家族も安心感を高めることができるのではないかと。
- ・サロンへの移動手段が協力者への同乗となると、歩行の機会は減じる。筋肉量の低下に対し、希望するマレットゴルフ参加のため、マレット仲間への同乗や、AI オンデマンドタクシー等の利用を検討。また理学療法士の娘による宅内での運動メニュー指導といった関与拡充を図る。
- ・この方のように、地域の趣味や取り組みのサロンに所属してきたことで、他者との継続的な関係性を有することができたことから、今後は身体状況や年齢的に可能な範囲内で、運動系のサークル参加も考えてみる。

地域包括ケア推進会議の目的と意義について (高齢者福祉課説明資料)



諏訪市地域包括ケア推進会議にご参加ください

- 日 時** 第2回 8月22日(木) 午後6時30分
 第3回 11月22日(金)
 第4回 令和7年 2月20日(木)

会 場 諏訪市総合福祉センター 交流ひろば

申込方法 QRコードまたはE-mailで
 ※E-mailでのお申込みの場合は、お名前、所属名、職種、電話番号および“参加証のご希望の有無”をお知らせください。

